

ぎふ専研 [岐阜商工会議所専門家研究会]

当研究会は岐阜商工会議所に登録している各専門家25名が研鑽を重ね、企業や事業支援の実践に役立てることを目的としています。
主な活動は、企業経営に関する法律、税務、財務、販売、事業承継、ITなどの事例を通して各専門分野からの意見や提言を行い、企業最適化を図ることで。

歴史は形を変えて繰り返す！戦国の歴史(戦略)に学ぶ企業経営

信長から秀吉へと時代は変わる
「中国大返し」に学ぶ経営

中小企業診断士 大野実雄

1 歴史は繰り返す

過去に起こったことは同じような経緯をたどって再びやってくるものである。古代ローマの歴史家クルティウス・ルフスの言葉「History repeats itself」の訳語。いつの時代も人間の本性(本来の姿や性質)に変わりはなく、過去にあったことは、また後の時代(現代・未来)にも繰り返して起きるといふこと。科学技術が大きく進歩しても、人間の心は実体験で鍛えられるもので、人の老化・死によってその実体験は失われていく。



伝えようと努力しているが、限界がある。人が人(人間社会)である以上、その心の動きは似たような状況では似たようなものとなり、似たような行動を取る。だから、時代が変わっても似たような環境(歴史的状况)があれば、似たような歴史が繰り返されることになる。

2 豊臣秀吉の「中国大返し」

真夏の太陽のように明るく、日の出の勢いで出世していった豊臣秀吉。本能寺で信長が亡くなった後、その偉業を継ぎ、天下統一を果たしました。

しかし、棚ボタ式に天下人になれたわけではありません。明智光秀、柴田勝家、徳川家康、信長の息子たちがいたわけで、自動的に後継者になれるはずもありません。戦って実力で、その座を勝ち取ったのです。

その最大の勝因は、スピードであったと思われま。秀吉にはあって、光秀、勝家、家康らになかったもの。それがスピードです。

信長が亡くなったのは天正十年(一五八二)六月二日の早朝。翌三日の夜には備中高松城(岡山市)で毛利軍と対陣中の秀吉がそれを知ります。「信長死す」と毛利家に知られると大変です。味方総崩れや、近畿の光秀と毛利に挟み撃ちにされることもありま。すぐさま、陸海の街道筋を厳重に封鎖し、毛利に情報伝が伝わらないように手配するとともに、毛利家との和睦を図り、撤収。近畿に引き返し、主君の弔い合戦の大義名分のもと、光秀を倒し、「天下人」の条件を確保しようと決断します。この決断をたったの一時間で決めたこと伝えられています。

3 中国大返しに学ぶスピード経営

翌四日の午後には和睦成立、六日に退却、八日には自分の本拠地の姫路に戻り、体制を整え出陣。十三日には京都・山崎に

経営力はスピードカ

- ① 停滞や遅れが企業を減ぼす
- ② 動かない水は腐る。流れる水は腐らない
- ③ スピードとは「早さ」「新鮮さ」「行動」をいう
- ④ スピードに勝る熱心さはない
- ⑤ 計画したら直ぐに実行する

て、光秀を討ち果たすにいたるのです。世にいう「中国大返し」です。切所(せつしよ)・難所、重大な局面)における決断と行動の早さこそが、秀吉の真骨頂です。次なるライバルの勝家を倒した賤ヶ岳(しずがたけ)・滋賀県長浜市)の合戦でも、秀吉

は敵を誘い込むため、いったん戦場を離れたあと、猛スピードで戻り、敵を殲滅(せんめつ)・残らず滅ぼすこと)した「大返し」をしています。

ITビジネスはドッグイヤー(二年が七年に相当する)といわれていますが、これは何もIT産業の専売特許ではありません。現在の事業環境はスピードで大きく差がつかます。戦国時代も、今日のあらゆるビジネス競争も、早いものが勝つのです。

* 史実は諸説があります。本文とは異なる説もありますのでご了承ください。



中小企業診断士・
社会保険労務士・販売士
大野実雄氏

PROFILE

メーカー、経営コンサルティングファームを経て事務所開設。「変化には変化でしか対応できない」を企業支援の基本としている。著書に「売れるように売れば必ず売れる」「働き方・生き方こころの軸」等がある。